

ARRN/JRRN主催「第8回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」

企画グループ サブリーダー 後藤勝洋

平成23年11月11日（金）、当センターが事務局を務めるARRN/JRRN（アジア／日本河川流域再生ネットワーク）主催による「第8回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」が、河川整備基金の助成を受け、東京大学農学部弥生講堂にて開催されました。本フォーラムでは、『減災と環境保全の視点から都市河川再生を考える』をテーマに、豪州・台湾・韓国・中国・日本の河川実務者・研究者から、河川再生事例や災害等への取組みが紹介され、会場全体での活発な討議が行われました。

各講演内容の概要を以下に示します。

オーストラリアからの講演「2011年ブリスベン川洪水被害への対応及び豪州政府が取り組む河川・湿地管理と再生」では、オーストラリアが、干ばつが多い国である一方で、地域によっては洪水の多い奇妙な国土であることを、近年の気候変動を背景として、2011年ブリスベン川洪水を事例に紹介されました。そして、水管理への対応として、国家水マーケットや地表水-地下水管理などをオーストラリア政府、州の共同で推進していくための“National Water Initiative”や、これまでのプログラムを比較評価し、オーストラリア国内で一貫性のある河川・湿地管理の実現を狙った“Framework for the Assessment of River and Wetland Health”について説明されました。

台湾からの講演「台湾における最近の都市河川再生の取組み」では、台湾において人工的に改修された河川を再生する取組みが進められているものの、自然のシステムを十分に考慮していないために、元の自然な河川を復元するには至っていないのが実情であることが示されました。Fazih川の河川再生の例では、コンクリートの護岸を撤去して、土手を復元するなど、景観的には自然な河川に近づきましたが、場所によっては、鳥類の生息場が消失したり、流速が増加して魚類が棲みにくくなるなど、課題も報告されました。

韓国からの講演「韓国における水辺環境再生のための技術開発～連続ブロックシステムの事例から」では、韓国において1990年代から河川再生が推進されるようになってきたことを背景に、水理的な安全性と生態系の保護の両面を満足する護岸の技術開発の事例が紹介されました。その技術の一つである「連続ブロックシステム（グラスコン：草（グラス）＋コンクリート（コン））」は、間隙に土壌と植生を含

ませることで、洪水に対する安全性や保水性にも優れ、護岸だけでなく、駐車場や道路などにも活用されていることが示されました。

中国からの講演「汾河における河川再生～洪水防衛と生態復元に向けた氾濫原の再生」では、中国西安市を流れる流路延長8kmの小河川、汾河において、1980年代以降、使用量が増加した化学肥料から水質を保全するため、汚染源の調査グループ、処理技術開発グループ、河川再生エンジニアグループによる河川再生プロジェクトが進められていることが紹介されました。広大な国土を誇る中国の河川再生に当たっては、地域間の格差の解消を前提に、流域で捉えることの重要性、難しさが示されました。

日本からの講演「流域治水～樋井川からのイノベーション」では、福岡市内を流れる樋井川において、都市化に伴う洪水量増加の問題を背景に、流域市民一人一人が主体となって水を貯めることで、流出抑制40%を目標とした活動を展開していることが紹介されました。樋井川で実施されている治水は、単に洪水から身を守るための治水だけではなく、利水や環境、コミュニティの形成にもつながる、地域づくりへと発展していくことを視野に入れた市民共働型の流域治水です。

なお、本フォーラムの講演録は以下のJRRNホームページよりダウンロードできます。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/3051.html>

第8回国際フォーラムのプログラム

第8回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム

- 日時：平成23年11月11日（金）13:00～16:15
 ○会場：東京大学農学部弥生講堂
 ○プログラム
- 13:00-13:05 開会挨拶 竹村公太郎
 （財団法人リバーフロント整備センター理事長）
- 13:05-13:15 ARR N ガイドライン ver.2 の趣旨及び内容紹介
 後藤勝洋（ARRN/JRRN事務局）
- 13:15-16:15
- 講演1：Alastair Mcharg
 （オーストラリア・National Water Commission 水計画部長）
 「2011年ブリスベン川洪水被害への対応及び豪州政府が取り組む河川・湿地管理と再生」
- 講演2：Shaohua Marko Hsu（台湾・逢甲大学教授）
 「台湾における最近の都市河川再生の取組み」
- 講演3：Sukhwan Jang（韓国・大真大学教授/KRRN事務局長）
 「韓国における水辺環境再生のための技術開発～連続ブロックシステムの事例から」
- 講演4：Aizhong Ding（北京師範大学教授）
 「汾河における河川再生～洪水防衛と生態復元に向けた氾濫原の再生」
- 講演5：島谷幸宏（九州大学大学院教授）
 「流域治水～樋井川からのイノベーション」
- 全体討議（座長：玉井信行 ARR N 会長）
 16:15 閉会挨拶 玉井信行（ARRN 会長）